

第四室

【自然かんさつの部屋へようこそ】

川と川辺の生き物と植物

この部屋で紹介するには、川や川辺にすむ 魚・昆虫・草花・鳥たちです。

川へでかけると、春夏秋冬 それぞれの季節で、そのすがたがちがつて見えます。

それは そこに自然があるからです。

春の川辺では、タンポポがさき、つくしんぼうが芽をだします。チョウがひらひら飛んでいます。

夏には 夏草がしげり、トンボなど虫たちの楽園になります。ホタルが舞う岸辺もあるでしょう。

秋には ススキが穂をなびかせ、冬には 冬鳥がむれをなします。

川や川辺は、わたしたち みんなの大切な自然の宝庫です。

この部屋にとうじょうする 生き物や植物は、その ほんの一部です。

知っている植物もあれば、知らなかつた昆虫もいるでしよう。

ぜひ この本を片手に、いろいろな季節の 川辺を散策してみてください。

そこには あたらしい発見が いっぱいまつているはずです。

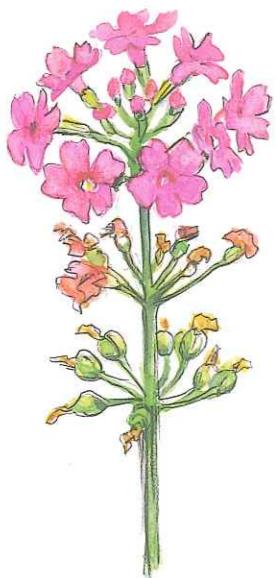
上流で見かける植物



キクザキイチゲ [キンポウゲ科] 高さ20cm
雪国の上流の湿地に多い。
北海道、近畿地方以北／花4～6月



ミズバショウ [サトイモ科] 高さ10～20cm
水がわきだすところや小さな谷川の湿地、水辺に多い。
本州・北海道／花5～7月



クリンソウ [サクラソウ科] 高さ40～80cm
山地の湿地、上流の流れのほとりに多い。
日本各地／花6～7月



ユリワサビ [アブラナ科] 高さ15cm
上流の渓流などきれいな水辺に多い。
日本各地／花4月



アズマイチゲ [キンポウゲ科] 高さ20cm
上流の小川などの湿地に多い。
本州、四国、北海道／花3～5月



おもに上流部の川原で見かける植物群落

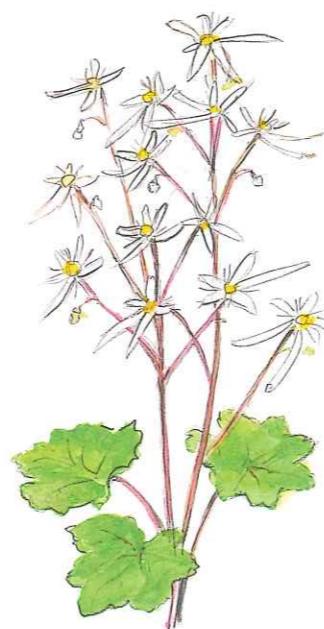
ナルコスゲ

ヒメレンゲ

ユリワサビ

ツルヨシ

サワグルミ



ダイモンジソウ [ユキノシタ科] 高さ15cm
上流の湿地に多い。
日本各地／花7～10月

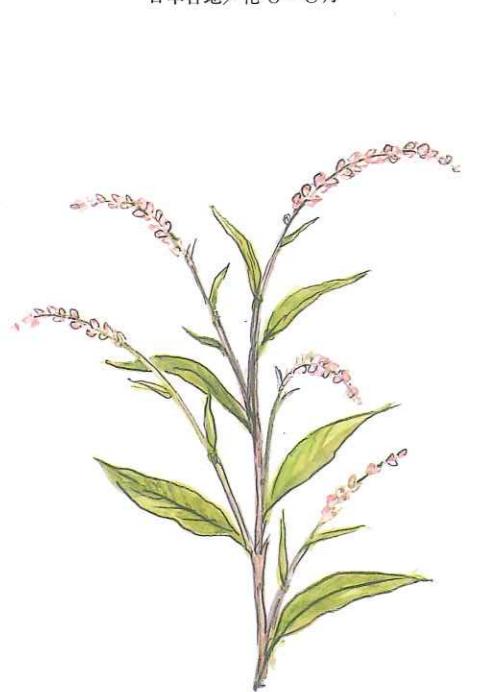
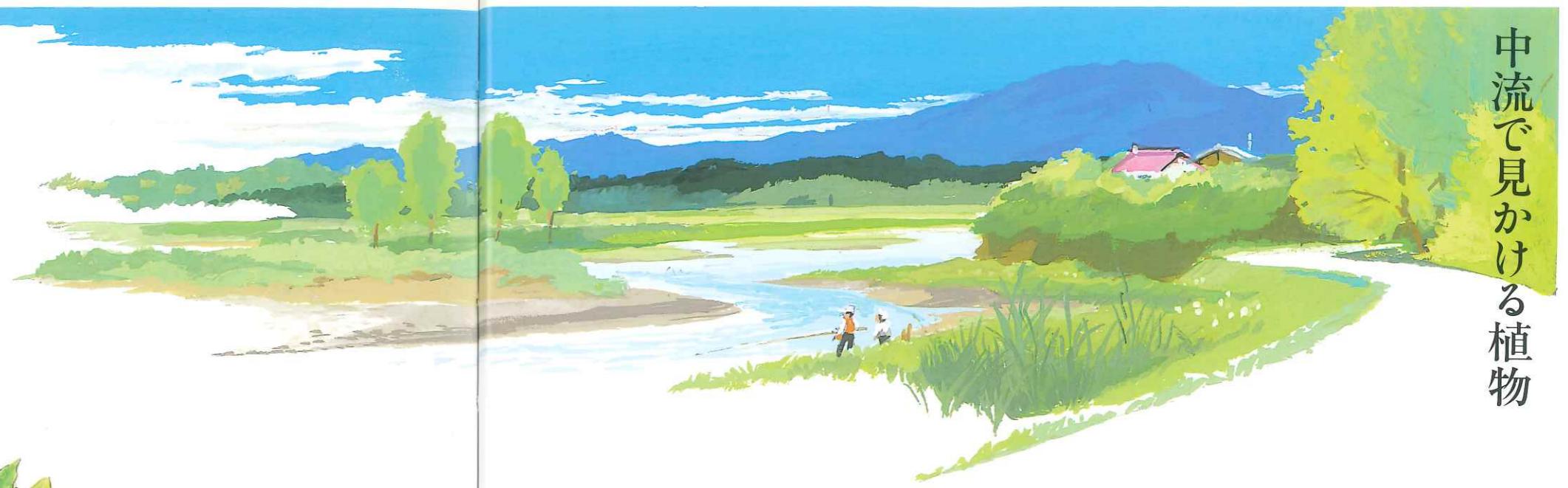


ヒメレンゲ [ベンケイソウ科] 高さ5～10cm
上流の沢ぞい、しめった岩の上にはえる。
本州、四国、九州／花4～6月

中流で見かける植物



カワラサイコ [バラ科] 高さ30cm
中流のかわいた川原などに咲く。
日本各地／花 6～8月



ヤナギタデ [タデ科] 高さ50～60cm
秋は美しく紅葉する。
日本各地／花 8～10月



ネコヤナギ [ヤナギ科] 高さ 2m
中流の川ぞいに咲く。
日本各地／花 3月



コセンダングサ [キク科] 高さ1～1.5m
川原や草地、道ばたにも見える。
日本各地／花 10～11月



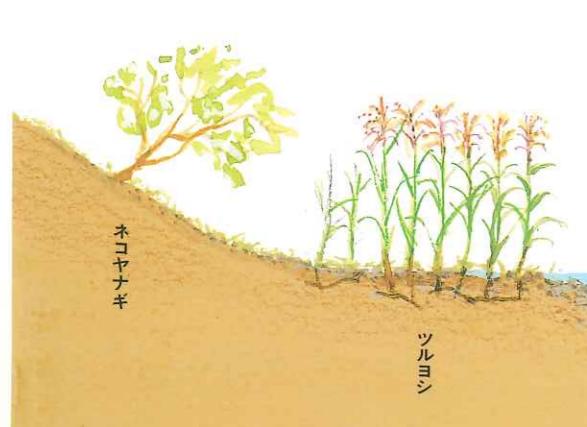
カワラハハコ [キク科] 高さ30～70cm
中流の川原に多い。ドライフラワーにできる。
日本各地／花 6～8月



マメゴンバイナズナ [アブラナ科] 高さ30～40cm
中流の川原に多い。
日本各地／花 5～6月



カワラニガナ [キク科] 高さ30cm
中流の石がゴロゴロした川原などに多い。
日本各地／花 6～8月



おもに中流部の川原で見かける植物群落



カワラドクサ [トクサ科] 高さ 1m
川原や海辺の砂地に群れをつくる。

下流で見かける植物



オオバコ [オオバコ科] 高さ15~20cm
道ばたなど、どこでも見られる。
人にふまれても元気に育つ草。
日本各地／花 4~9月



ミゾソバ [タデ科] 高さ40~50cm
下流のどろ地など水辺に群生する。
日本各地／花 8~10月



ヒキノカサ [キンボウゲ科] 高さ10~30cm
下流に多い。太い根に養分をたくわえる。
日本各地／花 4~5月



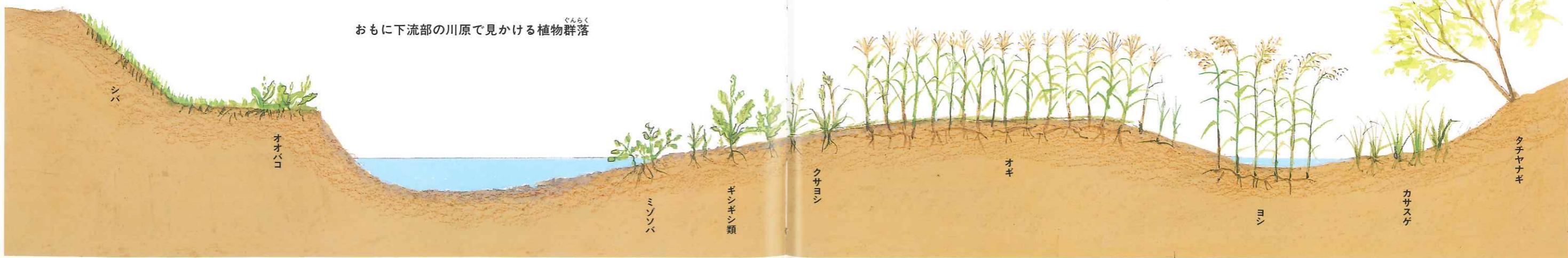
サクラソウ [サクラソウ科] 高さ40cm
下流の栄養の多いしめった土地をこむ。
北海道、本州、九州／花 4~5月



ゴシギシ [タデ科] 高さ60~100cm
野原、田畠のあぜ、しめったところに多い。
日本各地／花 6~8月



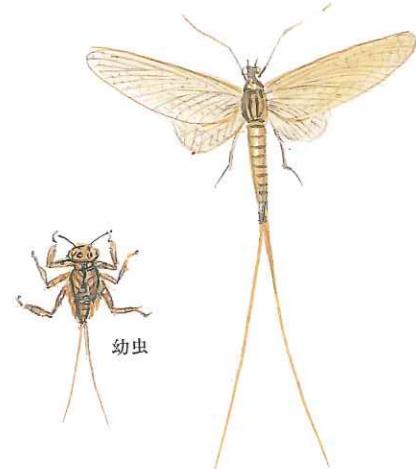
オギ [イネ科] 高さ2m
下流の水辺をこのんで群生する。
ススキにしているのでまちがいやすい。
日本各地／花10月



おもに下流部の川原で見かける植物群落

上流で見かける昆虫

カゲロウ・カワゲラ・トビゲラは、
上流部のきれいな水にすんでいる。
幼虫は川底の石にはりつたりしている。



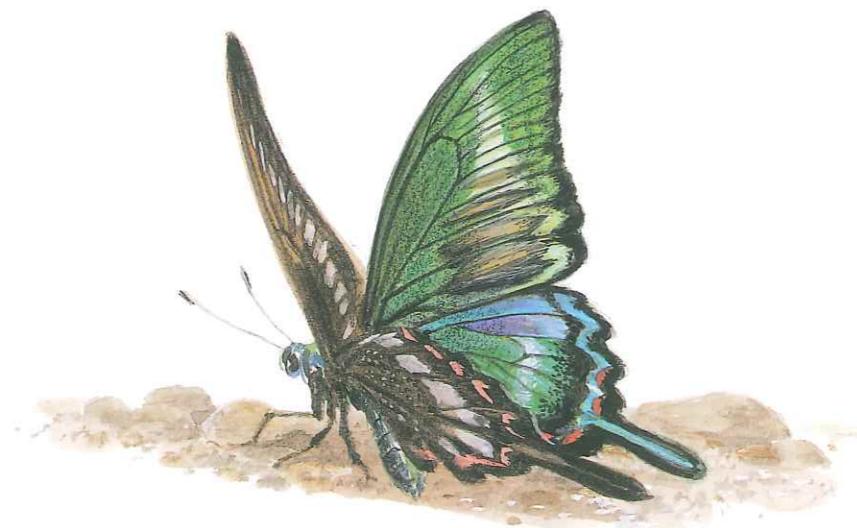
ユミモンヒラタカゲロウ [ヒラタカゲロウ科] 体長10~11mm



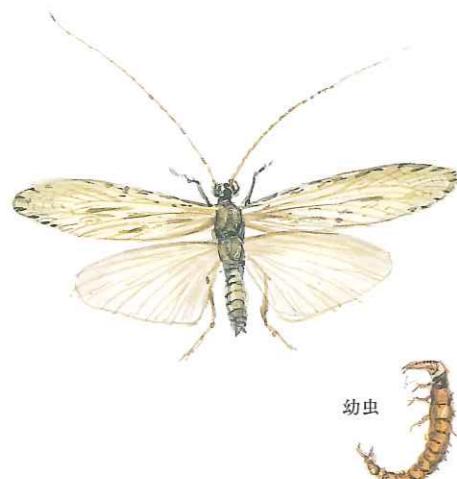
コムラサキ [タテハチョウ科] 開張70mm
渓流など上流の河原を低く飛ぶ。
流れに近いしまった砂地に含まれた水を吸いにくる。



オオヤマカワゲラ [カワゲラ科] 体長20~25mm



ミヤマカラスアゲハ [アゲハチョウ科] 開張 80~130mm
渓流の砂地で水を吸う。



ヒゲナガカワトビゲラ [ヒゲナガカワトビゲラ科] 体長12~18mm



サワダマメゲンゴロウ [ゲンゴロウ科] 体長8~9mm
体の下や足に赤みがある。



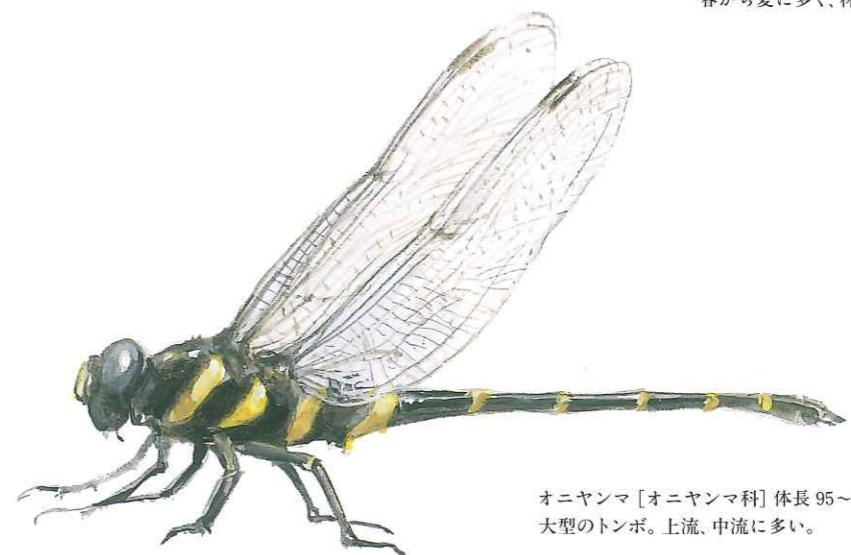
ミヤマカワトンボ [カワトンボ科] 体長65mm
渓流の石の上にとまっているのを、よく見かける。



ヘビトンボ [ヘビトンボ科] 体長35~45mm
幼虫のときは、きれいな水の流れの石の下にすんでいる。

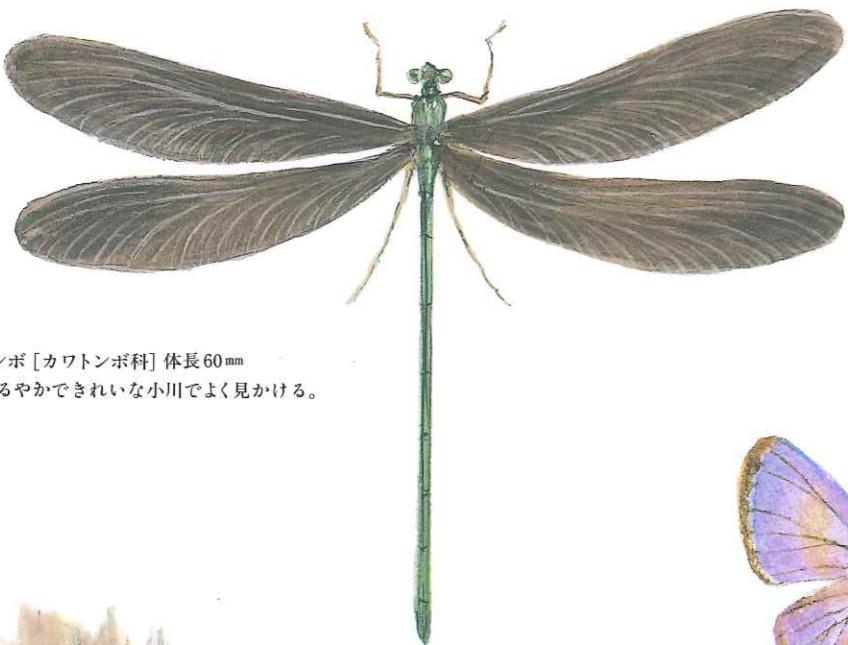


カラスアゲハ [アゲハチョウ科] 開張 80~130mm
春から夏に多く、林の中を直線的に飛ぶ。

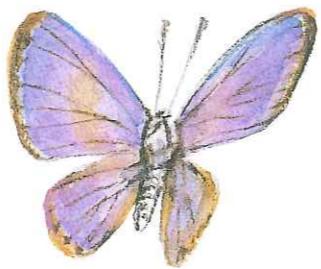


オニヤンマ [オニヤンマ科] 体長95~100mm
大型のトンボ。上流、中流に多い。

中流で見かける昆虫



ハグロトンボ [カワトンボ科] 体長60mm
流れのゆるやかできれいな小川でよく見かける。



ミヤマシジミ [シジミチョウ科] 開張30~32mm
中流、下流の河原に多い。



ノコギリクワガタ [クワガタムシ科]
オスの体長は36~70mmだがメスは24~30mmと小さい。



カワラスズ [コオロギ科] 体長9mm
川原などの石の下でチリチリと鳴く。



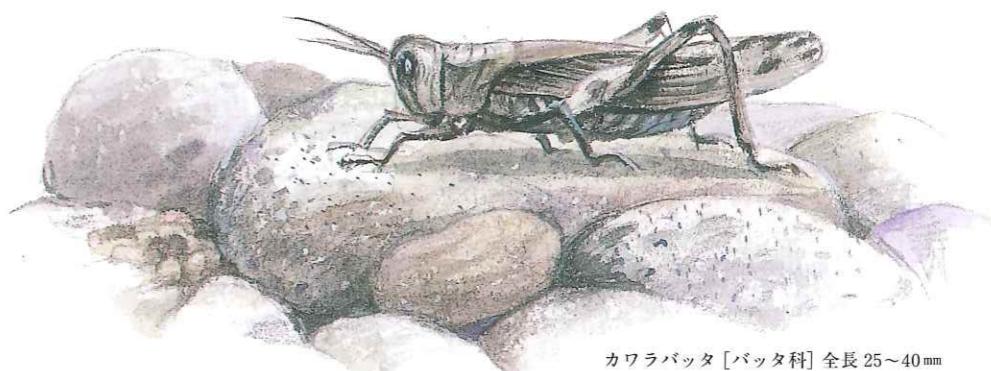
タガメ [タガメ科] 体長65mm
流れの弱い川や池にすむ。
水草のくきなどに頭を下にしてとまり、
えものをねらう。



ヘイケボタル [ホタル科] 体長8mm
ややよごれた水にすむ。
メタニシを食べて育つ。
ホタルの種類で川の水質がわかる。



ゲンジボタル [ホタル科] 体長15mm
幼虫のとき、きれいな水にすむ。
カワニナを食べて大きくなるので
きれいな水辺に多い。



カワラバッタ [バッタ科] 全長25~40mm
河原だけにしかすまない。からだの色が
地面の色にしているので見つけにくい。
中流に多い。



カワラゴミムシ [オサムシ科] 体長7mm
川原のしめったところにすむ。



ノグチアオゴミムシ [ゴミムシ科] 体長16mm
川原の石の下などによくいる。



エンマコオロギ [コオロギ科] 体長20~25mm
ジャンプ力が強い。



モンキチョウ [シロチョウ科] 開張40~50mm
地上すれすれをジグザグに飛ぶ。



キリギリス [キリギリス科] 体長40mm
「チョン ギース」と鳴く。

下流で見かける昆虫



ギンヤンマ [ヤンマ科] 体長70mm
川辺や池や沼によくいる大型のトンボ。



ナナホシテントウ [テントウムシ科] 体長8mm
テントウムシのもよは虫によって
いろいろ変わっている。



ゲンゴロウ [ゲンゴロウ科] 体長40mm
カブトムシのなかま。水中にすむ。
羽を広げて空中を飛ぶことができる。
小川や川に多い。



ヒメハンミョウ [ハンミョウ科] 体長8~11mm
川原の湿地に多い。



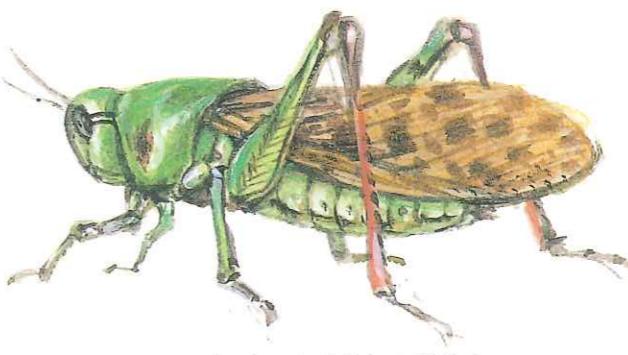
コバネヒメギス [キリギリス科] 体長25~30mm
川原などかわいた草地にすむ。



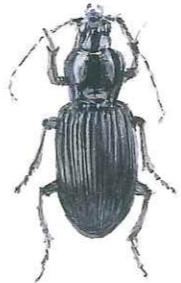
オオアメンボ [アメンボ科] 体長23~26mm
流れのゆるやかな川、池、沼にいる。
足の先に水をはじく細かな毛がはえていて
水面にうかんでいる。



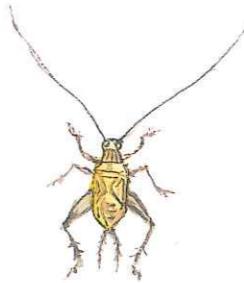
オオミズスマシ [ミズスマシ科] 体長8~10mm
水面をくるくると泳ぎまわり、目は二つに分かれ
水中と水上を見ることができる。



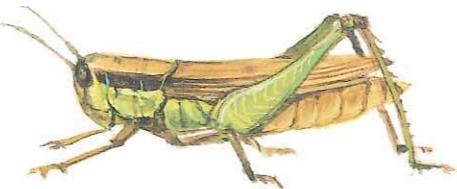
トノサマバッタ [バッタ科] 体長48~65mm
どこにでもいるバッタの代表。



オオゴミムシ [オサムシ科] 体長20mm
体はつやのある黒色で、川原の草地に多い。



キンヒバリ [コオロギ科] 体長5~8mm
水辺のヨシ原で美しい声で鳴く。



コバネイナバ [バッタ科] 体長30~40mm
つかむと消化液だす。

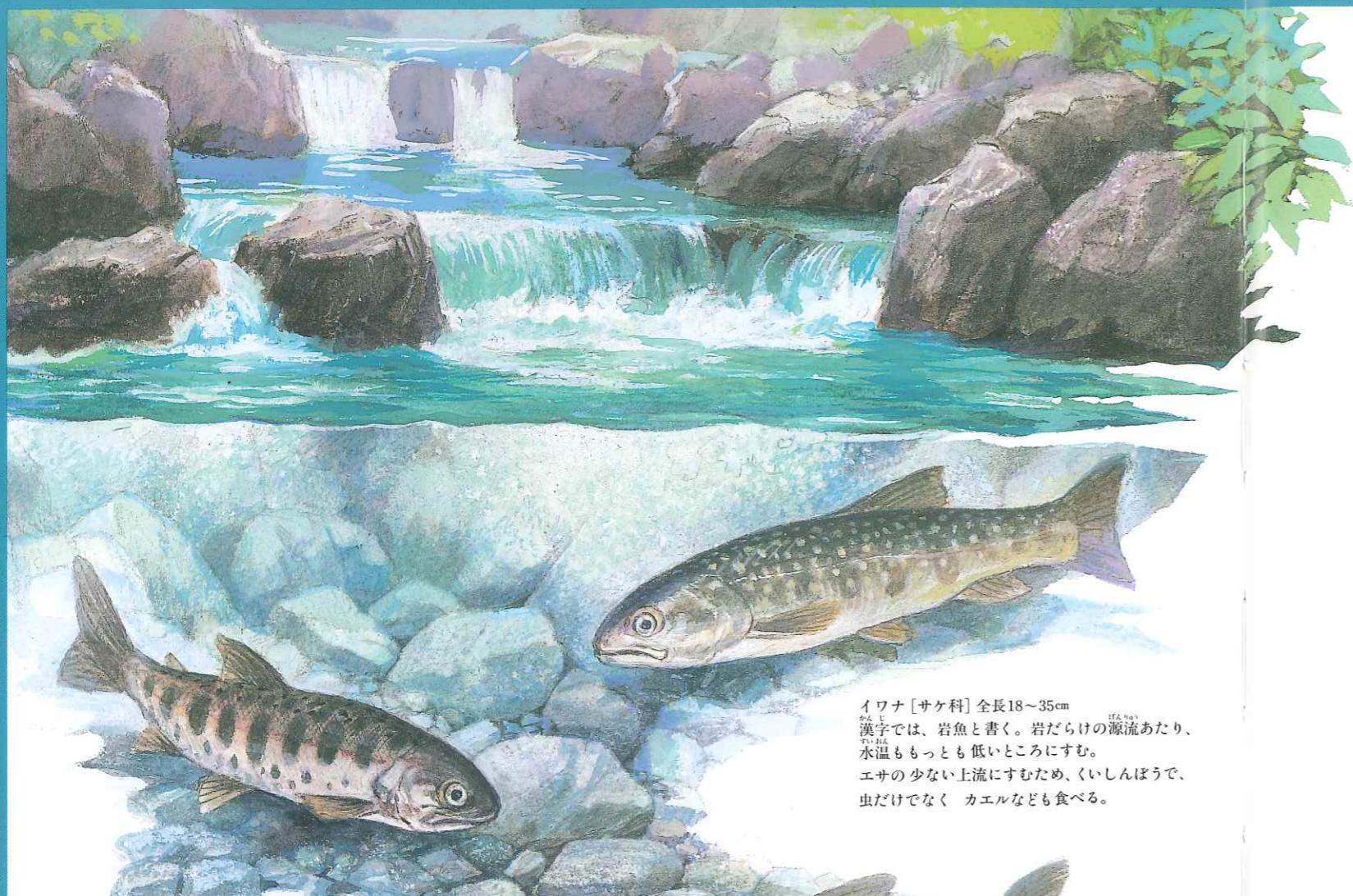


ケラ [ケラ科] 体長30mm
体に水をはじく細かい毛がはえているから
水の上も泳げるし、シャベルのような前足で
トンネルをほることもできる。また羽があるから
空を飛ぶこともできる。



クビキリギス [キリギリス科] 体長50~65mm
「ジーン ジーン」と連続して鳴く。

上流で見かける魚



イワナ [サケ科] 全長18~35cm
漢字では、岩魚と書く。岩だらけの源流あたり、
水温ももっとも低いところにすむ。
エサの少ない上流にすむため、くいしんぼうで、
虫だけでなく カエルなども食べる。



ヤマメ [サケ科] 全長12~30cm
漢字でかくと山女魚。いかにも渓流の主らしい
名前だ。用心深いから、人かけを見つけると
岩かげにサッとにげこみ、何時間もでこない。
天然のヤマメはまぼろしの魚といわれるほどだ。

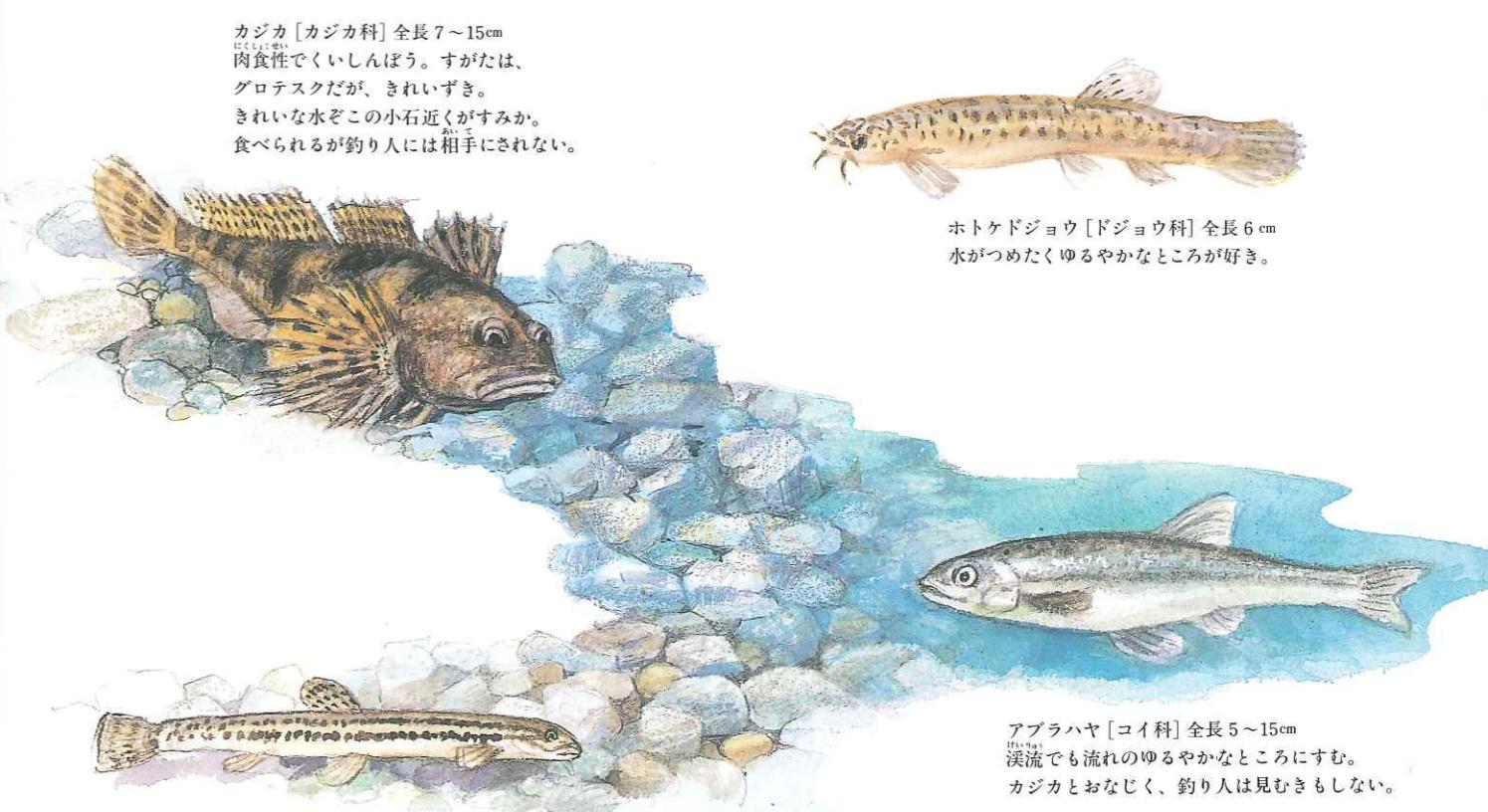
アマゴ [サケ科] 全長12~30cm
漢字で天魚と書く(アメノウオの別の名だそうだ)。
山にふった雨が渓流になるように、
アマゴも雨の生まれ変わりに思えたのだろうか……
性質はヤマメにそっくりで神経質だが、くいしんぼう
なので、ヤマメより釣りやすいそうだ。



ニジマス [サケ科] 全長80~100cm
養殖がかなりんな魚で、川や湖にも放流されている。
昆虫や小魚などを食べる。塩焼にするとおいしい。



アメマス [サケ科] 全長14~70cm
山地渓流部にすんでいる。
ジャンプ力が強く、滝などをのぼる力は
バツグンといわれている。



カジカ [カジカ科] 全長 7~15cm
肉食性でくいしんぼう。すがたは、
グロテスクだが、きれいさ。
きれいな水ぞこの小石近くがすみか。
食べられるが釣り人は相手にされない。

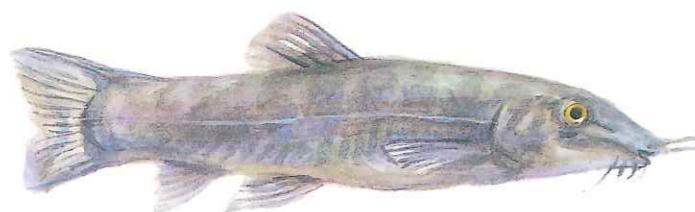


ホトケドジョウ [ドジョウ科] 全長 6 cm
水がつめたくゆるやかなところが好き。

イシドジョウ [ドジョウ科] 全長 6~8 cm
きれいな水ぞこの小石の多い場所にすむ。

アブラハヤ [コイ科] 全長 5~15cm
渓流でも流れのゆるやかなところにすむ。
カジカとおなじく、釣り人は見むきもしない。

中流で見かける魚



アユモドキ [ドジョウ科] 全長15cm
川や池の岩場や用水路の石の間に
よくかくれたりする。
泳ぐとアユにとてもよくしている。
近年いちじるしく減少したため天然記念物に
指定された。



ズナガニゴイ [コイ科] 全長20cm
川の中流から下流域にすんでいる。
カゲロウなど水生昆虫をこのんで食べる。



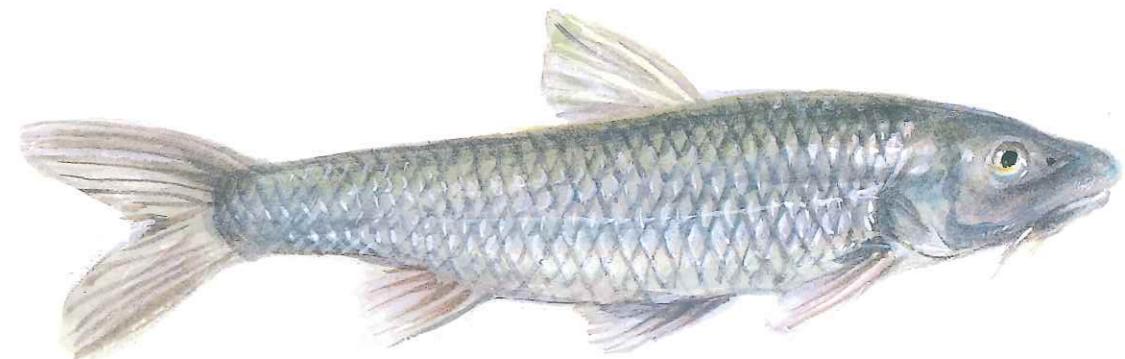
アユ [キュウリウオ科] 全長10~30cm
日本の川魚の代表格。中流の大スター。
天然のアユは、秋、川で生まれると、海へでていくが、
春になると川へのぼってきて、石についた、コケやモを食べて
大きくなる(海ではプランクトンを食べる)。
9~10月ごろ産卵がすむと短い一生をおえる。



オヨシノボリ [ハゼ科] 全長10cm
ヨシノボリ類の中では大型。
とぼけた顔であいきょうがある。
モや水生昆虫などを食べる。瀬などの急流に多い。



オイカワ [コイ科] 全長8~16cm
ふだんは、銀色の美しい魚。
はんしょく期には、オスだけが、玉虫色にからだを
うきたたせて、メスの関心をあつめる。



ニゴイ [コイ科] 全長50cm
体は細長く口さきが長い。
大きな川の中、下流域から湖まで広くすんでいる。



カワムツ [コイ科] 全長15cm
上流から中流にかけてすむ。
フチなどの、ゆるやかな流れをこのみ、岩の間などに
かくれていることが多い。
しりびれが大きく体側の黒いスジが特徴。



アカザ [ギギ科] 全長10cm
中流の水のきれいなところにすむ。
瀬の石のすきまをかいぐって泳ぐ名手だ。
おもに水生昆虫などを食べる。

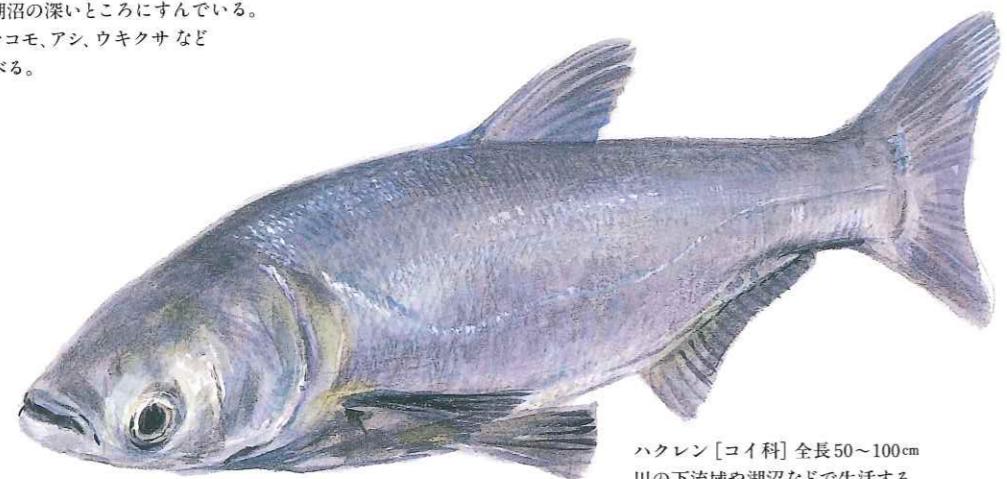


ヤリタナゴ [コイ科] 全長10cm
平野部の用水路など、流れのゆるやかな川や池にすむ。
水中の虫やコケ、モなどを食べる。

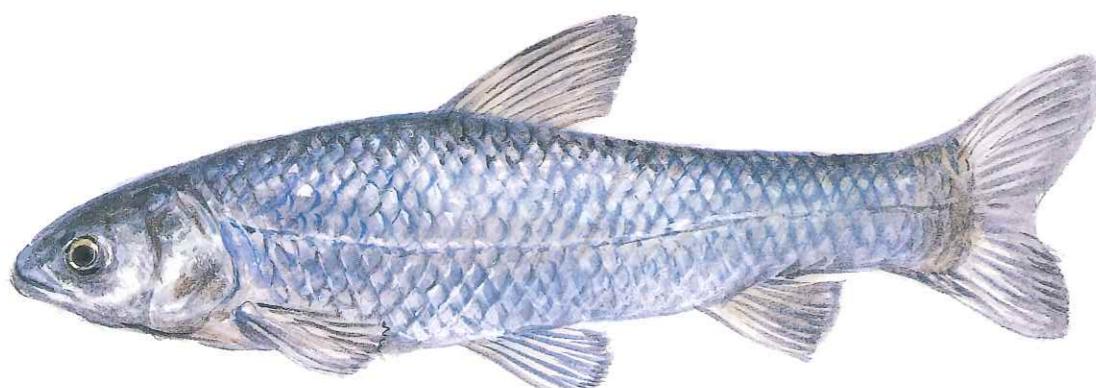
下流で見かける魚



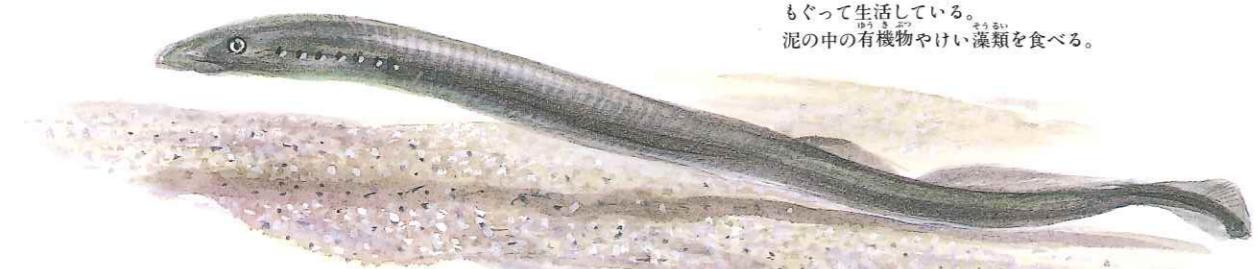
ソウギョ [コイ科] 全長50~100cm
コイにとてもよくしているが、ヒゲはない。
川の下流域や湖沼の深いところにすんでいる。
岸辺に生えるマコモ、アシ、ウキクサなど
水生植物を食べる。



ハクレン [コイ科] 全長50~100cm
川の下流域や湖沼などで生活する。
水面近くを泳ぐことが多く、ときどきジャンプする。
おもに浮遊植物を食べる。



アオウオ [コイ科] 全長50~100cm
川の下流域や湖沼の深いところにすんでいる。
おもに水底のタニシ、エビ、水生昆虫などを食べる。

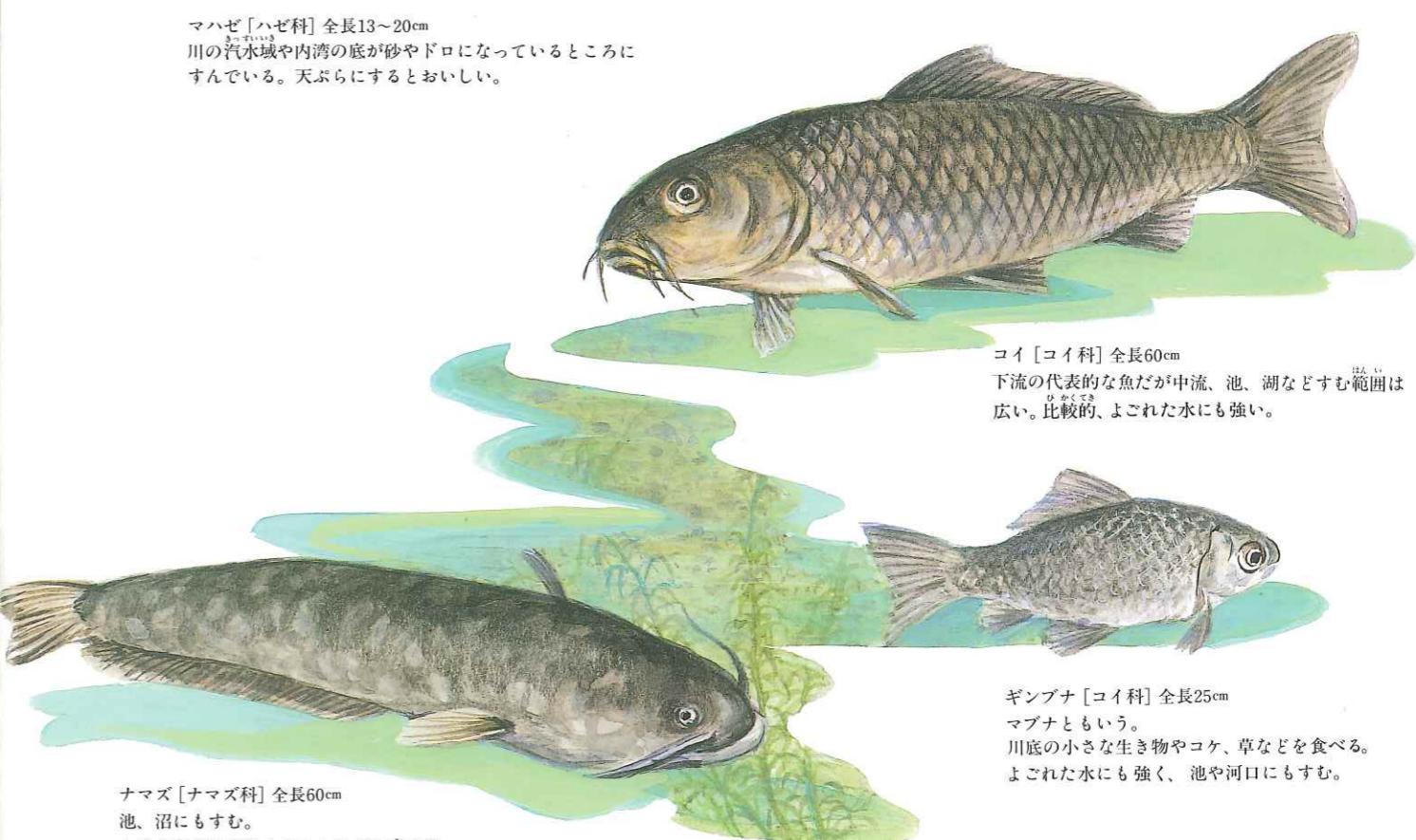


カワヤツメ [ヤツメウナギ科] 全長50cm
川の中流の渓や、下流のやわらかい泥の中に
もぐって生活している。
泥の中の有機物やけい藻類を食べる。



ボラ [ボラ科] 全長60cm
ないわん えんがん 内湾など沿岸の浅いところにすみ、
小さいときは、川をさかのぼる。
大きくなるにしたがって、より名(地方名)がかかる
出世魚。2~3cmでハク 3~18cmでオボコ
18~30cmでイナ それ以上がボラ
60cmほどの大型になるとトド、ドヒとよばれたりする。

カマツカ [コイ科] 全長20cm
中流から下流、かんがい用水路にもすむ。
えさを砂ごと吸いこみ、
エラ穴から、砂だけをはきだす。



コイ [コイ科] 全長60cm
下流の代表的な魚だが中流、池、湖などすむ範囲は
広い。比較的、よがれた水にも強い。

ギンブナ [コイ科] 全長25cm
マブナともいう。
川底の小さな生き物やコケ、草などを食べる。
よがれた水にも強く、池や河口にもすむ。

ナマズ [ナマズ科] 全長60cm
池、沼にもすむ。
小さな魚だけでなくカエルなども食べる。
地中の電流にびんかんなので、地震の予知ができるなどといわれたりしている。ヒゲがじまんだ。

上流で見かける鳥



カワガラス [カワガラス科] 全長 22cm
清流の谷川にすみ、水にもぐってはいざりまわり、
カワゲラ・カゲロウの幼虫などをおもなえさにしている。
飛びながら「ビッ、ビッ」と鳴く。



キセキレイ [セキレイ科] 全長 20cm
セキレイ類の中で一番上流にすむ。
飛びながら「チチン、チチン」とか「チチチ、チチチ」と鳴く。



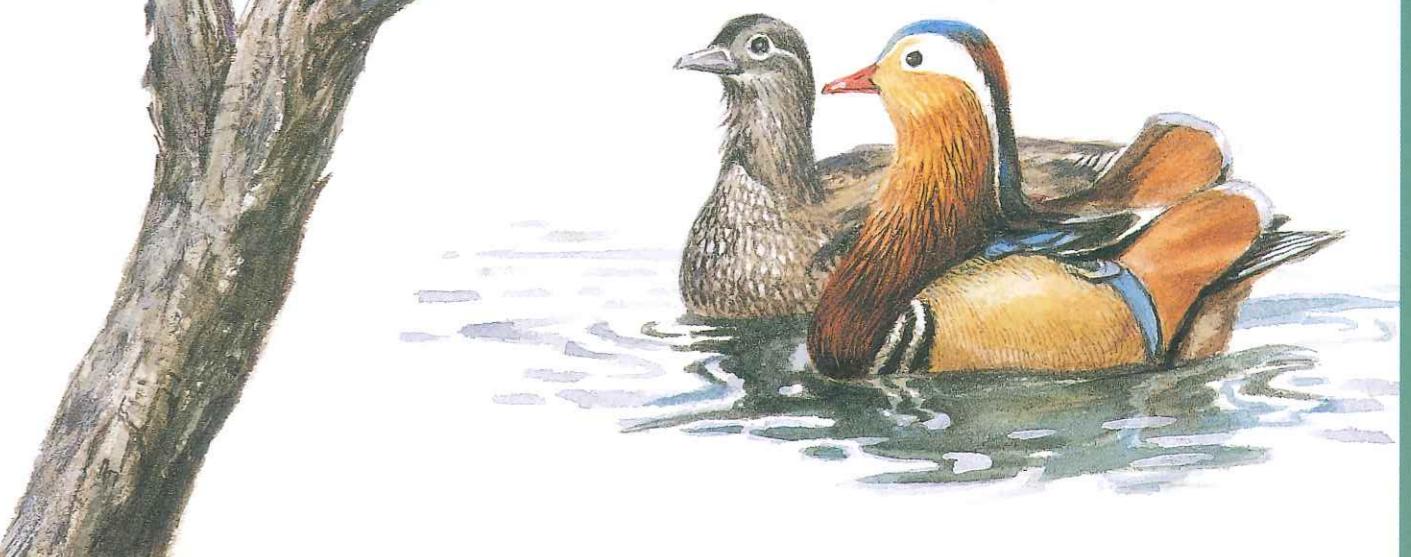
アカショウビン [カワセミ科] 全長 27cm
沢ぞいの林の中にすむ。魚、サワガニ、
トカゲ、昆虫など、さまざまな小動物を食べる。
「キヨロロロロ～」と美しい声で鳴く。



ヤマセミ [カワセミ科] 全長 38cm
渓流や湖沼にすんでいる。
水中にダイピングして魚をとらえる。
飛びながら「ケレ ケレ ケレ」と鳴く。



ミズゴイ [サギ科] 全長 50cm
谷川ぞいの暗い林に巣をつくり、
川でサワガニなどをとる。
「ブー、ブー、ブー」と低い声で鳴く。



オシドリ [ガンカモ科] 全長 オス 48cm メス 41cm
山間の渓流や山地の湖などにすむ。
いろいろな草木の実を食べるが、カシ、ナラ類の
ドングリが好き、冬には公園の池などにあらわれることがある。
オスは「ケーケー」と、メスは「クアッ」と低い声で鳴く。

中流で見かける鳥



ササゴイ [サギ科] 全長52cm
おもに中流域の川で生活し、池、沼、水田でも見られる。
魚を見つけると、とがったくちばしで、つきさしたり、
はさみとる。
飛びながら「キヨー」とするどい声で鳴く。



カルガモ [ガンカモ科] 全長63cm
親鳥がひな鳥をつれて歩くすがたや
泳ぐすがたはとてもかわいい。
「グエッ、グエッ」とにぎった声で鳴く。



ヒバリ [ヒバリ科] 全長17cm
川原の広い草原などにすみ、高い空で
「ピイピイピイ、リリリ、ピリピリ」などと
さえずりまわる。

イカルチドリ [チドリ科] 全長21cm
川原や中洲にすんでいる。
「ピョッピョッピョッ」とか「ピーアー、ピーアー、ピーアー」と
なきながら飛びまわる。



カワセミ [カワセミ科] 全長17cm
コバルトブルーにかがやく羽、水中にダイビングして
小魚をとらえる……その美しさから「清流の飛ぶ宝石」
とよばれる。飛びながら「チー」と鳴く。



カツブリ [カツブリ科] 全長26cm
水を足でけってもぐり、小魚などを食べる。
「キリッキリッキリッキリリ」と高い声で鳴く。



セグロセキレイ [セキレイ科] 全長21cm
川や湖の岸にすむ。石のある川原が好き。
岩のわれ目に巣をつくり、水辺の虫を食べる。
「ツイツイツイー、チーチー、ジョイジョイ」
などと鳴く。

下流で見かける鳥



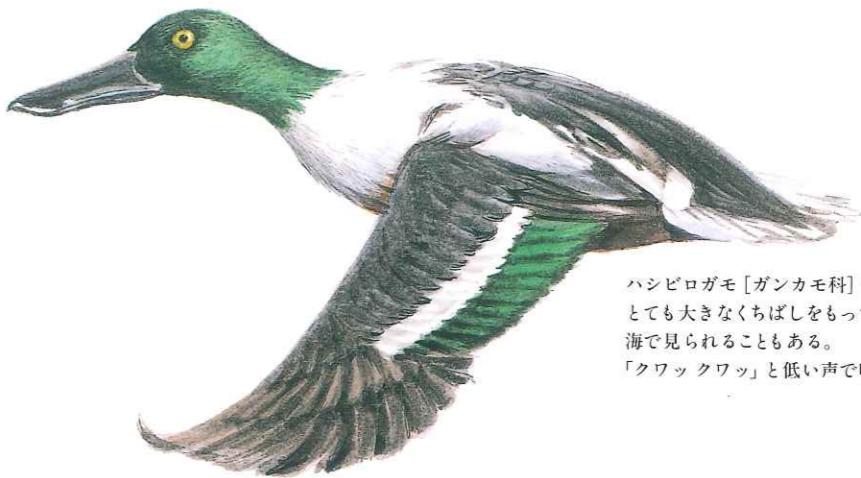
トビ [ワシタカ科] 全長 60cm
下流域ならどこにでもいる。
「ピーオロロロ」と鳴き、人々に親しまれている。



カモメ [カモメ科] 全長 45cm
河口、海岸などでよく見られる。
「キュッ キュッ キュー」とか「キヤツ キヤツ キヤー」というような声で鳴く。



ダイサギ [サギ科] 全長 89cm
川、池、沼、ひがたなどで生活をする。
水の中をゆっくり歩いてえさをさがす。
「グワー グアーゴアー」と大声でやかましく鳴く。



ハシビロガモ [ガンカモ科] 全長 50cm
とても大きなくちばしをもっている。
海で見られることもある。
「クワックワック」と低い声で鳴く。



イソシギ [シギ科] 全長 20cm
中流から下流域にすむ。ひがたや海辺にあらわれることもある。「ツイリーリー」と鳴く。



ホオジロガモ [ガンカモ科] 全長 50cm
大きな川、内湾などで見られる。
貝類、エビ、カニ、小魚や、水草なども少し食べる。
ほとんど鳴くことがないが、「チャッピー」とか「ビーピー」と鳴く。



オオヨシキリ [ヒタキ科] 全長 18cm
特に水中からアシが生えているような場所をこのむ。
「ギヨギヨン、ギヨギヨン、ケスケスケス」と少しにごった声でさえずる。